

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002246		
法人名	株式会社 アイケア大阪		
事業所名	グループホームアイケア服部 (Wユニット)		
所在地	大阪府豊中市服部寿町1丁目11番6号		
自己評価作成日	平成24年4月11日	評価結果市町村受理日	平成24年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774002246&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年5月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では利用者様ご自分のペースで健康的な生活を送って頂けるよう、①提携医療機関や地域の病院との連携、②調理専門職員による心のこもった食事の提供、③新施設で安全かつ清潔な住環境の整備など、「医・食・住」の充実に力を入れています。
また、利用者ー職員間だけでなく、利用者間、職員間、利用者家族間にも良好な関係が築かれており、施設全体に家庭的な雰囲気があります。関わる人々がお互いに労りあい、助け合える温かな施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が住み慣れた地域で「安心して暮らせるよう支援する」と謳った理念の基、職員は家庭的な雰囲気の中で利用者が地域活動などを通して、地域と繋がりがりながら安心して暮らせるよう支援しています。新築の移転先では前ホームと同じように階段昇降を通した生活リハビリを取り入れており、利用者は食事やおやつのために、職員と共に階段を使って上下する中で、身体機能を維持し元気に過ごされています。移転から1ヶ月と日が浅い中、自治会長や民生委員など地域の方から好意的に受け入れられており、近隣の子どもが遊びに訪れたり、散歩時に挨拶を交わす方が増えるなど、交流が生まれ始めています。職員は利用者と共に、地域行事に積極的に出かけたり、近隣の商店などを利用しながら利用者と共に地域に溶け込んだ交流をができるように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が住みなれた地域で「安心して暮らせるよう支援する」という理念に基づき、サービスを提供している。	ミーティング等で理念について職員間で話し合い共有しながら、利用者が地域活動などを通して地域と繋がりがりながら安心して暮らせるよう支援しています。管理者は働きやすい職場環境を整え、職員がゆとりを持って利用者に寄り添い、理念に沿った支援に繋がるよう配慮しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域での催し物等に参加している。季節に応じ、全員で花見に出かけるなどしている。敬老会、手芸教室への参加。	移転後1ヶ月を経て積極的な交流はこれからですが、自治会長や民生委員など地域の方々にはホームに対して好意的で理解があり、カラオケ大会などの地域行事への参加の声を掛けてもらい、参加を予定しています。また、トイレを借りに来た子供たちがその後もホームへ遊びに訪れたり、散歩時に声をかけてもらった理髪店を次回から利用予定とするなど、交流が始まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	移転後の新しい地域で貢献できそうなことを協議している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設であった事、施設の現状の報告や、家族会との交流・情報交換を行っている。	会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、市職員などの参加を得て開催しています。参考資料を配布し、ホームの状況や苦情報告、食中毒など、その時々議題について意見交換し、参加者から助言や地域の情報などを得て、行事などに取り入れています。不参加の家族には来訪時に議事録を渡して内容を伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の様子を積極的に伝え、高齢福祉課、社協との連携を行っている。	市担当者とは制度や困難事例など、分からない事は訪問したり電話などで相談を行い、助言や情報をもらっています。小学校や幼稚園を含む代表者が集う連絡協議会や運営推進会議にも参加を得ており、日常的に連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全上、玄関・エレベーターの施錠はしているが、利用者様の意思で出入りは自由に行える。	新人研修や外部研修への参加、また、外部から講師を招いて研修を実施し、身体拘束について職員に周知しています。家族の了解を得て夜間のみミトンを使用している利用者は、職員間で話し合い、体調を見ながら使用しない日を増やせるよう取り組んでいます。施錠については希望に沿って出かける機会を多く持ち、閉塞感の無いよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で話し合いや勉強会を行っている。		

グループホームアイケア服部(Wユニット)

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様には十分な説明をし、納得していただけるまで繰り返し説明をしている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族様の意見を聴くように努めている。	家族交流会や来訪時、家族と職員との食事会などで意見を聞く機会を設けています。散歩や外出、足の浮腫対策など、個別の希望など多く出された意見はケアプランに取り入れたり、運営に反映させています。職員は日頃から家族が意見を言い易い雰囲気作りに努めています。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度ミーティングを開いてお互いの考えを話し合っている。	月1回及び日々のミーティング時に時間をかけて職員間で意見を出し合っています。職員からは利用者の関係性に配慮した部屋替えの提案など、多くの意見が出されており、話し合いの上、速やかに対応しています。また、年1回の個別面談時にも職員の意見を聞く機会を設けています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践できる事は実行している。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた研修会への参加や、月二回講師を招き、勉強会を開催している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際、同業者との交流・意見交換をしたり、実習生受け入れなどを通して、質の向上に努めている。		

グループホームアイケア服部(Wユニット)

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけや見守りで表情や行動に変わったところがあれば本人に確認、または職員間・上司と相談する。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに面会、話し合いを何度も行い、良好な関係をつくるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や要望は出来る限り実行できるように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士で助け合えるように、レクリエーションなどを通して仲間意識を築けるように配慮する。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られたときは、近況などをお話して安心して頂き、内容によっては受診して頂く。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会でき、安全を確認できれば外出・外泊もして頂いている。	職員が付き添い、趣味のちぎり絵を電車を利用して習いに行く方を支援したり、以前住んでいた近所の店などへ一緒に買い物へ行っています。また、家族や友人知人の来訪も多く、これまで通り関係が継続できるよう支援しています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌教室、喫茶の日、ゆるゆる体操など全員参加のイベントやユニット毎のレクでトランプ、百人一首、カラオケなど楽しまれている。		

グループホームアイケア服部(Wユニット)

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られたり、施設に移られたり、入院された方へのお見舞いや、退去後亡くなられた方の通夜、告別式等にも行かせていただき、いつも連絡がとれるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添えるように個別ケアに努めている。	契約時に「暮らしシート」を用いて、利用者の暮らし方の希望や利用者・家族の思いなどを家族に書いてもらい思いの把握に努めています。入居後は利用者に思いを聞いたり、意思表示が困難な方は日ごろの表情などから気付いた事を職員間で共有してケアプランに取り入れ、思いが実現できるよう努めています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様個人、家族様からの聞き取りなどから把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメント表を作成し、生活習慣、ADLの把握に努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よく話し合い、理解し支援している。	利用者の暮らし方の希望や思いを取り入れた介護計画を作成しています。1~2ヶ月に1度モニタリングを行い、6ヶ月毎及び必要時に介護計画を見直しています。見直し前には全職員がアセスメントを行い、それを基にサービス担当者会議を開催して課題などを話し合い、利用者・家族の意向、日々の記録や医師の意見などを反映し計画を見直しています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の申し送り時、気になる点を改善するように話し合い、実践してみる。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの実践により、柔軟に対応している。		

グループホームアイケア服部(Wユニット)

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌教室、ゆるゆる体操、手芸教室などに参加し、楽しめる様支援している。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人専門医での定期受診や、異変時、早期発見に努め支援している。	利用者のほとんどが入居前のかかりつけ医を継続しています。受診は本来家族対応となっていますが、専門医を含めて職員が個別に受診を支援し、月2度訪問歯科による口腔ケアを受けています。また、緊急時など何かあれば個々のかかりつけ医に相談して指示を仰いだり、救急搬送で対応しています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時、利用者様に付き添い疑問や不安等があれば看護師などに相談して不安を解消するよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた場合面会に行き、家族、医師、看護師と連携をとり早期に退院できるように支援している。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様や利用者様と話し合い、利用者様に合った施設、病院または在宅へとつないでいる。	契約時にホームの重度化における対応について説明し、医療の必要度が高くなるとホームでの対応が難しいことを伝えていきます。家族や医師などと本人にとってベストな方向を模索し、ホスピスや入院なども含めて方向性を話し合っています。管理者は様々な条件が整えば看取りの支援を行いたいと考えられており、日常業務の中で職員に方向性を伝えていきます。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が内容を確認するよう努めている。 救急救命講習会の受講。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回近隣の方と消防署指導のもと、訓練を実施している。	年に2度、消防署の指導を受け、近隣の方の参加を得て利用者と共に避難訓練を実施しています。消火器の使い方や通報の方法、利用者が階段を利用して避難する際の所要時間などを確認しています。移転後は自治会長など運営推進会議のメンバーの参加の下、訓練の実施を予定しています。	

グループホームアイケア服部(Wユニット)

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉遣いで支援している。	職員はプライバシーや接遇などの研修を受講して学び、利用者を尊重した対応を職員が認識できるよう取り組んでいます。親しみやすい声掛けを心がけ、利用者によっては分かり易いよう下の名前で呼ぶなど、個々に合わせた対応に努めています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定しやすい様に支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位の生活支援を行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さりげない声かけ、自然に手伝いながら支援している。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にゆっくりと食事を楽しんで頂くために個人の食事時間を工夫し、支援している。	食事は利用者の希望を聞きながら調理専門のスタッフが作って提供し、嫌いな物は代替え品を出したり、食べやすいよう刻み食など個々に合わせて提供し、自分のペースでゆっくり食べてもらっています。月に1度餃子やたこ焼き、ピザなど、利用者が食べたい物を一緒に作ったり、回転すしやファーストフードなどの外食も楽しんでもらっています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の持病・口腔状態によって、こんにやく米、おかゆ、刻み食などに調理し、工夫している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを徹底し、月二回歯科訪問のケアを受診して頂いている。		

グループホームアイケア服部(Wユニット)

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄時間に合わせた声かけ、誘導、介助を行っている。	個々の利用者の排泄リズムに合わせて、衛生状態にも気を配りながら、トイレでの排泄を支援し、ほとんどの方が入居時に比べ排泄の状態が改善しています。個々の状態に合わせてパットを工夫したり、使用量を減らしながら、失敗が無いよう支援しています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量のチェックを行い、支援している。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者様の体調や意思によって行っている。	入浴は利用者の希望に合わせて心かげ、職員の声掛けの工夫などで、入浴を拒む方はほとんどなく体調に配慮しながら、週に2回は入ってもらえるよう支援しています。季節のゆず湯や毎日午後から水虫予防のために酢を入れて行っている足浴は利用者の楽しみとなっています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを考慮し、休息が必要などときには横になって頂くよう支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化に注意し、薬の副作用・用法・用量の理解に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の役割、楽しみごとなどは、出来る範囲で努力、支援している。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一度のバス日帰り旅行や、天候によるが、利用者様の希望があれば、出来るだけ支援している。	日々の散歩や商店街への買い物、箕面の足湯や清荒神、季節毎、個別の希望などを聞いて、利用者が積極的に出かけられるよう支援しています。転居した地域は散歩コースや公園に恵まれており、日に何度も散歩に出かける利用者もあり、職員は希望に沿って付き添っています。	

グループホームアイケア服部(Wユニット)

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持されている方もいるが、殆どの方は事務所で預かり、必要時に使われている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をされたり、外部からの電話の取り次ぎ、葉書を渡し書いていただき、ポストに投函できるようにしている。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、廊下にも飾りつけをしている。浴室もゆったりし、利用者様に居心地よく利用していただいている。	ホーム内は五月人形など、季節の飾り付けを行い、利用者の季節感に配慮しています。利用者は上下に分かれたリビングと居室フロア間を階段を利用して食事やおやつ毎に、また、自由に行き来されています。リビングの一角には観音様が祭られ、頻繁に手を合わせる利用者もあり、心の拠り所となっています。職員はテレビをつける時間を減らすように努める中で、気の合った利用者同士の井戸端会議が多く見られるようになるなど、利用者同士の関係性にも配慮し、思い思いに過ごして貰えるよう支援しています。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで音楽を聴けたり、他の場所にも椅子などを置いて、いつでも座りくつろげるように工夫している。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置いておられる物を触ったり、場所を変えたりしない。	居室入口には利用者の顔写真を貼り、利用者が自分の居室が分かり易いよう配慮しています。利用者が心地よく安心して過ごせるよう、好みで床にカーペットを敷いたり、ソファや使い慣れた鏡台、人形などを持ち込まれ、思い思いの部屋造りがなされています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、洗濯物たたみなど出来る事はしていただく工夫をしている。		